



あさぎり



あいあいデイサービス

介護認定を受けていない高齢者の方の「介護予防」を目的として、利用者の方々のふれあいや、健康体操、脳活性化運動等を行うデイサービスです。深田高山荘に併設する室内にて楽しく活動をしておられます。

12月定例議会	2P
臨時議会	3P
一般質問 10名が登壇	4~8P
議長あいさつ	9P
議会活動（研修報告）	10~13P
常任委員会等報告	14P
町の新しい風・議会ひとくちメモ	15P
町民の声	16P

12月定例議会審議ポイント

22年度予算は、歳入歳出それぞれ
1億9322万1千円を追加し
歳入歳出の総額が
113億4704万6千円に
なりました

補正予算など十二議案を可決

第四回定例議会は、十二月十四日から、十七日まで開かれ、一般会計補正予算など十二議案を審議し、いずれも原案どおり可決。

審議内容の抜粋

子ども医療費助成事業

子ども医療費給付金を

千三百三十五万八千円

を追加し

年間総額

七千六百六十万八千円

問 医療費が増額されて

いる。この制度（小学六

年生まで医療費が無料）

を生かしつつも、もう少

し医療費を抑制できるよ

うな方法が出来ないか。

答 七千六百六十万八千

円という年間総給付見込

み額は、当初想定できな

かった。支払方法の見直

道路維持費

備品購入費で

ダンプカー購入に

四百五十万三千元

問 ダンプカーの故障の原

因は何か。こういうもの

は、当初予算で上げるべき

であって緊急に上げたのは

何故なのか。

答 町のバイオ燃料の試用

車として、使っていた。燃

料または、エンジンどちら

が原因かは分からないが、

修理で対応できなかった。

作業現場で影響があるの

で、出来れば急いで更新を

お願いしたい。ダンプ等の

使用については今後も注意

して取り扱っていききたい。



小学6年生まで医療費は無料です

臨時議会審議ポイント

1月25日、平成23年第1回臨時議会が開催されました。22年度一般会計補正予算等2議案が審議され、いずれも可決されました。補正予算では、歳入で**2億8631万5千円**の臨時交付金があり、それを含め歳入歳出それぞれ、**116億9336万5千円**となりました。また、一身上の理由で2人の議員が辞職された旨の報告がありました。

臨時交付金の内訳

きめ細かな交付金 **2億4769万4千円**
住民生活に光をそそぐ交付金 **3862万1千円**

審議内容の抜粋

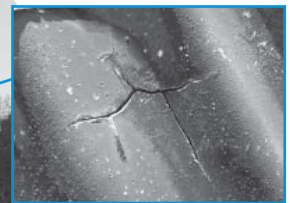
体育施設費

高山体育館屋根改修に

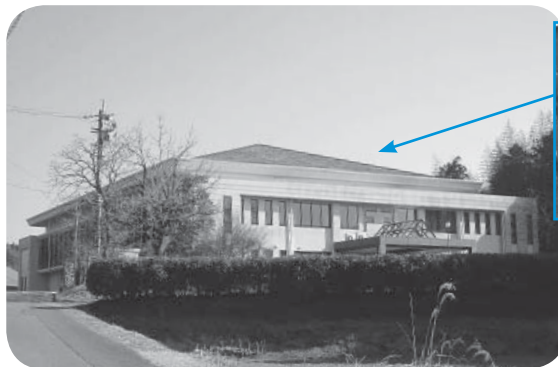
四千五百万円

問 築十九年程度の屋根を、なぜ全面改修しなければならぬのか疑問に思う。雨漏りがあるという事だが、実際屋根に上って調べられたのか、詳しく説明して欲しい。

答 実際、屋根に上って確認している。石綿セメント瓦（スレート）で、触ってみると、ボロボロになってヒビの入っている箇所が非常に多い。雨漏りの原因は、屋根のこの亀裂のためと思われる。今回それを全面取り替えて、金属銅板に布設替えをしたい。



屋根の亀裂



高山体育館

消防施設費

備品購入費

積載車4台と

小型ポンプ7台購入

三千二百五十五万円

問 更新時期が来た事による購入という説明だった

が、出初式の時、明らかに調子が悪いポンプが見受けられたが、その対応は。
答 小型ポンプの更新は、だいたい経過年数二十年で更新計画を立てている。出初式の際に数台調子が悪いという報告を受けているので、消防の役員会等で今後の対応を協議し、必要ならば予算計上していく。



消防積載車

◎ 中世紀山城、皆越城址の調査は

皆越城調査は閉校後検討したい



議員 荒田 勇一

施設七十四件に誘導板十八件、更に案内板を増設し、防火演習等指導し、施設整備に取り組んでいく。

荒田 有形、無形文化財、天然記念物の調査管理、継承は。

民族芸能は二十二団体あるが後継者育成が悩みである。

教育長 指定文化財百五十一件の内、見学

荒田 誓願寺阿弥陀堂屋根修繕を早急に対応願いたい。



皆越城址

教育長 二十二年度中に茅葺きで改修予定である。

荒田 中球磨の中世期山城十八ヶ所の調査は進めているか。

教育長 永里城、高山城、黒田城、宮原城は調査済み、皆越城は皆越分校閉校後検討したい。

荒田 高田素次先生の考古学資料の調査等対応は。

町長 調査を開始した。
荒田 シンボルロードの俳句に碑建立を合併十周年に向け再起し継続建立の考えは。

町長 観光に資する面で検討したい。

◎ 行財政改革の取り組みを

長期的な計画でやっていく



議員 利孝 愛甲

となる。

町長は、行財政改革を進めていく上で、どのような課題を想定して取り組んでいるか。

町長 国の財政が非常に厳しい借金状態で進んでいるということから、国から地方に交付されるお金というものは、かなり厳しくなるということを想定して

町長 行財政改革推進の専門課をつくるということについては、提案の一つとして受け止めた。

いる。財政調整基金の積み増しなどをやりながら、長期的な計画に基づいてやっていく。

愛甲 行財政改革はあさざり町にとって、さ

しせまっている大きな問題だ。本腰をいれてこの問題と取り組むために、行財政改革推進課を設置する考えはないか。

町長 行財政改革推進の専門課をつくるということについては、提案の一つとして受け止めた。

質問が登壇



子ども達の将来のためにも

◎ TPP参加に賛成が反対か

あさぎり町長として反対



小見田和行議員

方針と支援策をまず先にするべきと考える。

小見田 参加反対の意志をどのような手段で伝えるつもりか。

小見田 TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の交渉参加の糸口になり得る包括的経済連携に関する基本方針で協議開始の閣議決定が去る十一月九日になされた。仮に参加した時の農水省の試算では農業生産額が四兆一千億円、食糧自給率が十四％に低下、雇用も三百七十万人の減となっており、人吉球磨の農業も四十八％の減収となっている。率直なご意見を伺いたい。

町長 国の農業の根幹

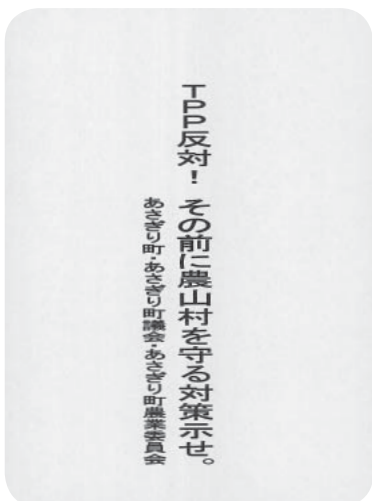
町長 町長名で反対であるという趣旨の要望書を各関係大臣に直接出している。

小見田 反対の意志を示すためにも垂れ幕等飾る事を考えられないか。

町長 垂れ幕で町として意志を呈することはいいと思う。

他の質問

グローバル化していく中であさぎりの農業振興について。



一般 10名

◎ 中学校統合に伴う資料、資料の保存は

保持し後世に伝え残していく



櫻山 保議員

櫻山 平成二十四年度より中学校統合としてスタートする中で、各学校多くの大事な資料、資料があると思うがその保存は。

町長 六十数年にわたっているんな歴史を刻んで資料等が保管されている。きちんと保持し後世に伝え残していく事は大事な取り組みと思っっている。

◎ 今後町の活性化、発展するための取り組みは

「若っかもん」が残れるように頑張る

櫻山 現在町の人口が減少していく中、「若っかもん」が残れる町づくり」と言われるが、その取り組みは。

町長 いかに関心する場所をつくりきるかであるうと思っっている。

櫻山 特に四十歳から四十九歳で合併した年から現在で五百五十名減少している。中堅の方が減少している中で「若っかもん」が残れる町

櫻山 中学校時代の涙あり感動された資料や資料を資料館として設けることは出来ないか。

教育課長 教育委員会として遊休施設活用の方見を申し入れていく。

教育長 子供達、大人にとっても大きな財産。一ヶ所に集めた場所を今後も取り組んでいきたい。

「若っかもん」が残り続ける。

町長 非常にこの問題は大きい。企業誘致については残念ながら出来ていない。農産物を加工して都会にどう売るかと思っ。

櫻山 臨時雇用人員の将来については。

農林振興課長 県の基金を活用しながら、「若っかもん」が残れるように頑張りたい。

◎ J A加工施設の立替えに、
町としての対応は

積極的に取り組みたい



永井英治議員

永井 J Aくまの子会
社に農産物の加工場が
あるが、現在立て替えの
話があると聞く。中学校
統合後の跡地利用にも
可能性が広がり、是非あ
さざり町に作って欲し
いと考えるが、町の考え
はどうか。

町長 J A内部でもか
なり検討されているよ
うだ。他の町村の迷惑も
あると思うが、いろんな
施設もあさざり町には
あるので、その活用も含
めて積極的に取り組
みたい。



J Aの農産加工施設クマレイ(湯前町)

策の情報伝達が非常に
遅く、現場の農家は苦労
している。情報伝達を
もっと早く出来ないか。

農林振興課長 情報的
には、九月くらいからイ
ンターネット等で国の
概要として流されてい

るが、予算的な裏付けは
全然ない状態で、要綱・
要領も作成されていな
い状況での情報提供で
ある。十一月十日には、
集落営農生産組合長を
対象に、参考概要と前
置きして説明会を開催
した。

町長 国とのタイムラ
グがある。町村会レベ
ルで国県に要請をしてい
きたい。

◎ ふるさと振興社の経営方針は

全力でがんばる



皆越てる子議員

皆越 ふるさと振興社
の社長が、九月末日で退
職され「広報あさざり
十二月号」町長のページ
で詳細に振興社の事が
掲載されましたが、

目標・計画・実行はどの
様にして職員に伝達さ
れているのか。

商工観光課長 ふるさと
と振興社においては、週
の金曜日、月の最後の金
曜日午後三時半より進
捗率、事業の活動報告を
し、内容の検討と共に業
務が停滞しないように
全力でがんばっている
状況である。



ふるさと振興社

皆越 加工施
設の開放とい
うことで、味
噌を毎年つ
くっているが、
大豆の作付維
持と絶対量の
確保について
どのように考
え、水田裏作
としてどのよ
うに位置づけ

られているのか。

商工観光課長 本年度
面積で四十八ヘクター
ルの減、数量で八十六
トンの減となっている。
振興社での一年間の使
用量をみますと約十一
トンである。当面は大
丈夫と思っています。が、
国の政策情報を早くと
り入れながら対応がで
きるように心構えはし
ている。



みそづくり

◎学校教育の基本方針は

知徳・体の調和のとれた児童生徒を目指す



宮原盛幸議員

注いでおられるが、教育方針はいかに。

町長 私も人間的な温かみがあり、自然に学び命の大事さを知って苦難に負けず生きていける教育を基本的にすべきであろうと思っている。

教育長 知・徳・体の調和のとれた児童生徒を目指し、家庭・学校・地域社会が一体となった教育を推進することである。

宮原 合併特例末期の財政運営で大事なことは、合併前のバブル予算を調整しながら予算編成を行う事だと思う。今回、研修先の福島県郡山市では、学校教育においての基本として人間的な温かみを最重点においてであった。具体的には市民の協力により学校、家庭、地域全体から取り組んでいる。それにより児童生徒の安全を守り豊かな知性と人間性のある子供の育成を目指している。あさぎり町では電子黒板等には力を

本町では交流の場はあるのか。

教育長 熊本市、八代市と大きなところには教育センターがあるがそれ以外にはない。県の教育センターが山鹿にある。一泊二日とかで行っている。

他の質問 学校教育と社会教育について 中学校の統合による不必要な物品の払い下げについて

学校教育と社会教育



上小学校教育実践発表会

◎子供手当は目的に沿った形で使用されているか

保育料も支給月にあわせ納付してもらっているため少し改善された



溝口峰男議員

村長大会で決議したので国に対して国庫負担を要望していく。

溝口 子供手当は、目的に沿って使用されているか。

教育課長 給食費の未納額(昨年度一二九万六〇二八円)の徴収率からみると変わりはない。

福祉課長 保育料の未納額(昨年度二千二百一十九万五四〇六円)の徴収率からして少し改善されている。子供手当の支給月にあわせ納付してもらっている。

溝口 町では、非常勤職員、臨時職員、派遣職員、業務請負職員、

溝口 神奈川県知事は、全国の都府県知事、市町村長にも子供手当地方負担と事務返上の呼びかけをしているが、町長はどの様にするのか。

町長 基本原則として、国庫全額負担を全国町

員、社会福祉協議会にもそれぞれの職員がいるが、長年雇用されていないが一円の昇給もない職場があり賃金の格差が生じているが改善すべきではないか。

総務課長 一四三名が雇用されているが、県内の最低賃金の格差も二・七%上昇しているので財政課とも協議をして処遇改善について検討していく。

他の質問 町は雇用対策基金をつくり、町ならではの雇用対策をすべきでは。



町の将来を担う子どもたち

◎教育委員会所管遊休施設の
有効活用は

今後検討していく



奥田公人議員

奥田 町教育委員会所管遊休施設の有効活用については、地域審議会等において検討されていると思うが、意見が上がっていたら、お聞かせいただきたい。

奥田 町教育委員会所管遊休施設の有効活用については、地域審議会等において検討されていると思うが、意見が上がっていたら、お聞かせいただきたい。

にまだ固まったものではない。皆越分校については、来年三月をもって閉校となるので、来年四月からの活用ということも含めて、ほかの中学校よりも先に何らかの提案といえますか、町としての考え方をお示しすべきではないかと考えている。その後の総合計画審議会等にもお示しをしていくつもりである。

企画財政課長 地域審議会については、全体での合同審議会を今二回



皆越分校

◎農業用排水路及び農道等の整備を

今後も公平性をもって整備を検討していく



桑原武夫議員

桑原 本町の農業用排水路は、農業構造改善事業により整備され相当年数が経過、老朽化し、施設の損壊箇所が相当見受けられる。その状況を踏まえ、国からの交付

金を財源とし、町は平成二十一年度、二十二年度で整備を実施してきた。しかし未だ要望箇所が相当数残っている。十一月国会において補正予算が可決し、臨時交付金の配分があると思うが、今後未整備地区にどう対処し計画しているのか。

農林振興課長 要望箇所を担当が現地に向



老朽化している用水路

き調査をし、公共性、緊急性、町民に対する広域的な整備など進めてきた。二十三年度きめ細かな交付金等も来る。今後の予算措置においては、財政当局と検

討し、精一杯努力したい。
他質問

◎農業用排水路への水の供給について

◎放置竹林を解消(間伐)し、鳥獣被害防止を図り雇用創出の考えは



放置されたままの竹林



改修がまたれる用水路

右肩下がり時代の迎え

あさぎり町議会議長 橋爪 和彦

謹んで新春のお慶びを申し上げます。町民各位のご多幸を心より祈念いたします。

さて、十二月定例議会に国民健康保険税三千二百十万円を減額する補正予算案が提出されました。税金が下がって、一見良いことみたいですが、二十一年中の町民所得が予想以上に低下した結果を反映したものです。本町の町民総所得は、ここ数年減少傾向にあることは確かです。原因として、人口減、農林産品価格の低下、地場商工業の不振、雇用形態の変化の影響が考えられます。

何れも世界や国の流れに乗った構造的なもので、短期間での解消は難しく、残念ですが、本町経済は右肩下がり時代の入り

ています。町行政としては、町民所得と町勢の向上に向けて知恵を出し、各種施策に全力を尽くすことは当然のことですが、一方で町財政については、右肩下がりを充分

に視野に入れた慎重な運用が求められます。

企画財政課で今後十年間の町財政推移見込みを出しています。それによると、町税は一割程度の減収ですが、町で最大の歳入源である交付税と臨時財政対策債が合併特例の切れる平成二十六年度



商工会女性部から生花の贈呈

から下がり始め、二十八年度から実質単年度収支が赤字になり、しかも年を追って増加する危機的な状況です。

町では、生き残りをかけた第二次行財政改革プランを策定中ですが、いく

ら立派なプランを作っても運用する執行部の財政危機への認識が薄ければ無用の長物になりかねません。例えば、二十四年春のあさぎり中学校開校に向けた準備が進んでいますが、説明を受ける計画の中には果たして財政のことが頭の片隅にでもあるのかと疑うものもあります。私を含め町議会や大部分の執行部の皆さんが、物心ついて以来、昭和の右肩上がりのインフレ時代に育ち生活した世代で、右肩下がりでのフレは初めての体験です。

油断をしないと思考回路が昔に帰ってしまいます。

管理職は無論のこと職員一人一人に、課を超えて、健全財政への自覚を強く求めたいと思います。議会としては、各方面との軋轢あつれきを気にせず厳格にチェックすることに加え有効な政策提案することが求められます。

新年度からインターネットによる議会中継が始まり、情報公開が飛躍的に進展すると期待しています。その上で、今年こそ、議会と町民の皆様が一堂に会して直接ご意見を拝聴する機会を実現し、その成果を町政に反映する仕組みを作りたいという意欲をもっています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

議会活動

二班に分かれて先進地視察

国会議員に要望活動も

あさぎり町議会では、十一月二十四日から二十六日までの日程で、地元選出の国会議員お二人に対する町内の諸課題の要望活動、二班に分かれての先進地視察を実施しました。報告書の中から、それぞれ二名の方に登場していただきました。

岩手県葛巻町

北緯四十度 ミルクとワインとクリンエネルギーの町のキャッチフレーズで、年間五十五万人の観客を招き入れ、地域の活性化に向け設置された第三セクター。四社は黒字経営で、町に還元している。発足時は赤字であったが、議会も温かく見守り、現在の発展につながっているとのことであった。

岩手県盛岡迄、車で約二時間三十分、決して交通の便も良いとは言えない葛巻町。人口七千六百人、森林

小見田和行

が八十六%の酪農と林業を基幹産業としている。冬になると最低気温がマイナス二十℃〜二十五℃と聞いた。決して恵まれた地域とはいえないが、なぜ年間三十万人の研修を受け入れる町となったのか。

自然を守り、自然を生かす。「自然との共生」が、何十年、何百年前からこの地の人々の心に根つき大切に守られてきており、歴代の町長の施政の方針もこれを継承し発展させてこられた結果だと思えた。

バイオマスの利活用については、風力発電、木質、家畜ふん尿発電など、

数多くの施設が整備されており、さすがにバイオマスのメッカと言われる事だけあると思った。

風力発電においては、町の年間消費量の三千四百万kwを上回る約五千四百万kwとの事である。各ブランドメーカーも「葛巻」での事業に参画できたことが、自社のPRになるという事で、メーカー側の拠出で、町の財政に負担を与えることなく実施されている施設・事業もあった。ブランド力を備えた町の優位性を痛感した一面であった。

また、山ぶどうを原料としたワインや飲料の生産も第三セクターの葛巻高原食品加工(株)で行われていた。その始まりは、自生するヤマブドウを見た町長らが栽培を決意し、商品化にこぎつけた。現在では町内だけの生産では間に合わず、近隣の町村にも原料のヤマブドウを求めるまでになったとの事である。地域にあるものに注目し、アイデアを出す発想、それを実行に移し外部の専門家に尋ねる行動力、それに賛同する生産者によって産地化の道が開かれ

ているようだ。

あさぎり町は、きびしい自然の葛巻町と比べれば、恵まれ過ぎてハングリー精神に欠けているのかもしれない。

日常の生活の中に新しい視点を持ち地域活性化への一助と成り得る人材に成らねばと決意を新たにしたい研修であった。関係機関及び御世話いただきました多くの方々に御礼申し上げます。



木質パレット工場(葛巻町)

岩手県葛巻町

議員研修ということで、二十四日早朝より、鹿兒島空港から、二時間余り、電車にて国会へ、衆議院金子先生・参議院松村先生各々の事務所にて要望書を手渡し会館を後にする。

翌日は、新幹線で三時間余り、最初の研修先、葛巻町の交流館プラトへ、広大な敷地・外の冷たい風が身にしみた。

葛巻町議会副議長の歓迎の挨拶後
①新エネルギーについて四十分間余



畜糞発電施設の視察

りの概要説明後質問に入る。葛巻町で出来る事だけを計画実行するということで、温泉も無い・ゴルフ場も無い。家畜はホルスタインで一万頭以上、人口は七千六百人と家畜の方が町の人口よりも多いという事でした。家畜の預託も生まれると同時にされておられると言う事で、自宅では成牛のみで、搾乳だけです。生乳も大変成分が良く千葉県の方へ出荷しているとのこと、水田の転作は八十%だそうです。いわゆる飯米だけの作付けだそうです。飼料の作

付も傾斜が激しく、危険が一杯のところでの作業のようです。又、葛巻ワインも人気があり三億円余りの売上だそうです。山葡萄の自然にあるものを生かした取り組みと言う事でした。山葡萄も限界があるでしょうと尋ねると、畑とか地区外の人にも作付けをお願いしていますと言う事でした。他に木質ペレットも見学し、本町もくまもと製材と一緒に取組んだらという事を感じました。又、首長さんが変わられても事業



を継続していく事の大事さを改めて感じました。一つしかない町あざざりを外部から見ると事のでき良い研修でした。

福島県郡山市・会津若松市

宮原 盛幸

今回の議員研修では、福島県の郡山市と会津若松市を訪問した。二市においては、はっきりとした教育に対する基本的なものを感じた。それは、物質的なものより、人間的な温かみを重点においているということを感じた。



橘小学校の授業風景

郡山市の橘小学校では学校教育と社会教育がよくかみ合っていて、地域公民館との連携により教育効果が上がっていることである。具体的には「学習サポートボランティア」の人たちが、日常的に教育活動を支援されていることが大きな特徴であった。私たちが、各教室の授業を参観しても児童の皆さんは普通に学習していて、学級崩壊など無縁な橘小学校に感動を覚えた。

会津若松市では議会の議場の中に、会津の歴史をまず感じた。また、青年の心を育てる市民行動プラン、あ



料理教室（橘小学校）

いづっこ宣言」があり、「人づくり」こそが、地域発展の礎との考えが市民共通の行動指針としていた。その「あいづっこ宣言」は

1. 人をいたわります。
2. ありがとう、ごめんなさいを言います。
3. がまんします。
4. ひきょうなふるまいはしません。
5. 会津を誇り、年上を敬います。
6. 夢に向ってがんばります。

やっではならぬ

やらねばならぬ

ならぬことは、

ならぬものです。

と結んである。そこには、会津戦争で戦った会津市民の誇りを感じた。

また中学校等の学校統合は、会津市民らしく合併の条件に中学校統合はしないと、はっきり宣言した地域もあつたし、住民の考えを第一にとの事であり、行政主導の統合などありえない雰囲気であつた。

視察、研修を終えて、福島県、特に会津若松市では、たとえ、政府の方針がどうであろうと自分たちの事は自分たちの方針を最重要視するというプライドが、その底流にあると感じたのは私一人だけではないのではないか。あさぎ町もその点は学ばべきかもしれない。

1. 郡山市立橘小学校

田原 健一

三十二万都市「郡山市」の中心部に位置し、駅や商業地域の近くにある一方、市民センターや中央図書館などに隣接し、文化的な環境にも恵まれた学校で、約四百人の児童たちが

生き生きと楽しく小学校生活を送っていた。今年度は創立九十周年を迎えた節目の年で、校長は「一人ひとりの子供たちがさらに輝きを増すよう、力を尽くしていきたい」と職員の方頭に立つてがんばっておられた。校長は橘小学校の特色ある学校運営についていくつか紹介された。

(1) 授業モニター制度

「真に開かれた学校」を目指す取り組みのひとつとして、保護者や地域の皆様に、子供たちと同じ学びを体験していただき、学校に対する理解を深めてもらう制度で、教師の資質を高めることにも役立っている。

(2) 学習支援ボランティア

ボランティア要請計画を作成し、公民館に連絡することにより、公民館等で要請内容に応じて、学習ボランティア等を派遣していただき、日常的な教育活動への支援をいただくことにより先生方が安心して授業を展開できる。ボランティア参加者と子供たちとの間に交流が生まれることで、協力者に生きがいと充実感が残る。また、子供たちにも安



心感や感謝の心が生まれる。

(3) 縦割り班

年間を通して、一年生から六年生までの「縦割り班」によるさまざまな活動が行われ、学校全体が家族のような雰囲気にも包まれている。（掃除・全校ハイキング等）

感想…

(1) 児童の授業態度に落ち着きがあり、掲示されている作品は字・絵ともにいいねいに書き描かれ、能力の高さを感じた。

(2) 掲示物が整然としていて、校長の



歴史のある会津若松市役所

統率力・各先生方の努力の程が伺えた。

(3) 小学校においては女の先生が多い中であつて、橋小は半数の男の先生ということであつた。県下のモデル校的存在のように思えた。

2. 会津若松市

(1) 議会事務局の対応により、歴史が刻み込まれた議場を視察した後、事務局長より歓迎の挨拶と十二万都市会津若松市の概要について説

明をいただいた。会津藩校「日新館」創設以来、「人づくり」こそ地域発展の礎との考えのもと、教育に力を入れてきた歴史と伝統がある。この会津で培われた伝統的な規範意識を踏まえながら、市民共通の行動指針として策定されたのが、青少年の心を育てる市民行動プラン「あいづっこ宣言」で、六つの規範が謳われている。宣言の締めとして、やっつてはならぬ やらねばならぬ ならぬことはならぬものです など、なんとも含蓄のある表現が現か・・・。

(2) 教育委員会の学校教育課長から小学校十九校、中学校十一校の学校経営・運営ビジョンのうち主なものについて説明を受けた。すべての学校における教育目標・教育基本方針は会津藩校日新館の教えが根底にあるも、それぞれの学校が創意を凝らしグラウンドデザインを描かれ、情操教育と学力向上に力を注いでおられる状況がうかがえた。文武両道の風土が根付いている感想を持った。

町長選挙と同日選挙

議員二名が欠員

あさぎり町議会議員のうち二名が議員辞職願いを提出し、議長がそれを許可したことの報告が、一月二十五日開催の臨時議会の中でなされました。

二名の欠員を生じたので、四月に予定されております町長選挙と同日選挙で、町議会議員の補欠選挙が行われることとなります。

なお、町民の声の中には、この際、議員定数を削減して、補欠選挙を回避してはどうかということもあるようです。しかしながら、地方自治法の中で、「議員の定数の変更は、一般選挙の場合でなければ、これを行うことができない」となっておりますので、今回の補欠選挙には適用できません。

議会改革特別委員会報告

第十回を十月一日に開催

○湯前町、相良村の議会中継システムを視察。

第十一回を十月十二日に開催

○菊池市と八代市の議会中継システムを視察研修。

第十二回を十一月一日に開催

○議会中継システムの整備方針を検討。

第十三回を十二月十六日に開催

○議員定数、報酬の検討。(六月か九月定例会迄には結論を出したい。)

○各種審議会、委員会就任の是非を検討。

○各種計画策定の議決事項の条例化の検討。

○議会報告会の開催を検討。

○町HPへの議会バナー設置を検討。

常任委員会等報告

一部事務組合協議会報告

●総務文教委員会報告

十一月十五日。三委員会合同で、閉校予定の四中学校を始め町内の主な遊休町有資産の現状を現地確認しました。

十二月七日。企画財政課より、合併後の財政状況の推移や今後の長期財政見込みを踏まえて、現在策定中の第二次行革プランについて説明を受け、行革実施後の職員評価方法や一部事務組合の行革の必要性等を議論しました。

同日、教育委員会から、町内小・中学校児童生徒の学力・体位・体力について説明を受け、地域と学校及び幼少保の連携について質疑しました。

●建設経済常任委員会報告

一、町内の遊休資産の有効活用についての調査を十一月十五日に実施。遊休地九ヶ所、中学校施設を現地に担当課の説明を受けた。遊休地については、取得した目的として活用できるのか、又売却も含め検討する必要がある。皆越分校については、早急に活用策を示すべきである。

二、バイオマス事業について、十一月二十四日～二十六日の議員

研修に合わせ岩手県葛巻町の「エネルギー自給のまちづくり」の取り組みを調査した。太陽光発電、風力発電、畜ふんバイオマス発電、木質バイオマスガス化発電に取り組み、観光客は昨年五十五万人となっており人口七千六百人の酪農の町は大変活気があり学ぶべき事が多かった。

●厚生常任委員会報告

学童クラブの実態調査

(一)意見交換 十一月五日、指導員の先生方から各クラブの現状と問題点及び行政に対する要望などを聞かせていただきました。具体的に要望されたことについては執行部につないでいきたいと思えます。今後は情報や問題点を共有され、安心安全な学童クラブ運営ができるように「学童クラブ連絡協議会」の立ち上げを提案しました。

(二)視察 三十余年の歴史のある免田学童クラブと誕生したばかりの岡原ハーモニークラブを視察しました。

●球磨郡公立多良木病院企業団協議会 定例会報告

平成二十二年第三回定例会は十一月二十二日に招集され会期一日で開催されました。議案につきましては、専決承認一件、補正予算三件の四議案を慎重に審議した結果、全議案いずれも原案どおり承認・可決されました。

●川辺川総合土地改良事業組合協議会報告

川辺川土地改良事業組合定例会が十一月二十二日、一日の会期で開かれ、まず、松本組合長より、いま、相良村土地改良区組合員への利水事業に関する説明会及び意見交換会を計画しているという報告がありました。

議案では人事院勧告に準じた職員給与条例の改正、それに基づく補正予算を議決しました。

一般質問で錦町選出の佐藤議員、相良村選出の茂吉議員から、休止状態になっている川辺川利水事業

について、現在の状況、今後の見通しなどについて質問が行われました。

●人吉球磨行政組合協議会報告

平成二十二年十二月三日に開かれ、平成二十一年度歳入歳出決算認定で四件が原案可決されました。

また、平成二十二年度一般会計・人吉球磨ふるさと市町村圏特別会計・特別養護老人ホーム特別会計・一般会計経費の負担金の総額補正予算も原案どおり可決されました。

●上球磨消防組合協議会報告

○平成二十二年十一月二十二日
平成二十二年第二回定例会

○平成二十二年十二月二日
消防議員研修

研修地 滋賀県湖北地域消防本部
研修目的 消防の広域化について

町の新しい風 (有)アグリサービス あさぎり

農家の担い手不足、農業者の高齢化問題が深刻になってきたことから、平成11年、将来の地域農業の方向性について集落代表者、JA、旧岡原村役場との間で検討を重ねられた結果、今後の地域農業の維持、発展のためには、地域基幹作物の主要作業を担う作業受託組織の発足が必要との結論に至り、地域農家7戸による農作業受託組織「アグリサービス岡原」として発足されました。更に、あさぎり町の合併により農業生産法人有限会社「アグリサービスあさぎり」を設立され、構成員は7名で、3名を雇用しておられます。現在、作業受託として、水稻の耕起、代かき均平、田植え、無人ヘリコプターによる防除、収穫。大豆においては播種、刈取り。麦作では播種、収穫。ごぼうは深耕、堀取り。加工用ニンジンの播種を行う他、葉たばこ共同育苗、共同乾燥施設のオペレーターや、JA球磨岡原ライスセンターの初摺りオペレーター等を実施しておられます。平成22年度は14ヘクタールの面積を耕作し、水稻8ヘクタール、麦14ヘクタール、大豆6ヘクタール、インゲン豆20アール、米粉用水稻10アールを生産されており、平成21年度は県の農業コンクール（組織部門）で受賞されました。平成23年度には無人ヘリコプターをもう一機導入される予定と聞き、今後の「有限会社アグリサービスあさぎり」の益々の御活躍が期待されるところです。



無人ヘリコプターによる防除

◎ 広報委員研修 ◎

あさぎり議会だよりを、少しでも町民のみなさまに、読みやすく親しまれる議会だよりにするため、御船町議会・益城町議会の広報を研修して参りました。御船町、益城町は昨年広報コンクールで上位に入賞されており内容・写真・文字・色の配分とすばらしく、町民に読みやすい広報紙になっていました。

私達も意見交換をするなかで、明日からのよりよい議会だよりの編集に努力しなければと思いました。



議会ひとくちメモ(10)

(町議会のことをお知らせするコーナー)

公債費負担比率…借金の程度

公債費(借金の返済金)に充てられた一般財源等の比率です。公債費が一般財源等の用途の自由度をどの程度制約しているかをみることに、財政構造の弾力性を判断する指標です。二十%が危険水準、十五%が警戒水準とされています。あさぎり町の公債費負担比率は、二十年度で二十九%になっており、危険水準を超えています。

公債費負担比率の他にも、公債費比率、起債制限比率、将来負担を含む公債費比率などの財政指標があります。そのいずれもが、あさぎり町と同規模の町村(類似団体)と比較しても、決して良い数値ではありません。

町の声

親になって思うこと



須恵 北川 梓 あつぎ

あさぎり町に生まれ、もう三十年、子供が大きくなるにつれ、「子供が安心してのびのびと過ごせる環境」、「子育てをする親にとっての環境」など、「親」になって思う事が増えてきました。私が子供の頃にはなかった学童保育。それだけ仕事を持つ母親が増えていて、核家族が増えているという

こと。そんな現状の中、学童保育が存続の危機にあるそうです。これは、親だけの問題なのでしょうか。それから、中学校統合問題。統合に向けて着々と準備が始まっていますが、あさぎり町としては活性化する反面、旧町村としては、中学校がなくなる事で行事等もなくなり、淋しくなります。旧町村の活性化も必要なのではないでしょうか。今年のはじめ、あさぎり町の新人は、二百十人。その内の一割しかあさぎり町には残

っていないそうです。「少子高齢化」がどんどん悪化し、十年後、百年後…考えると恐ろしくなります。私は今、須恵で本当に良かったと心から思っています。人に恵まれずごく楽しく過ごしています。「須恵は良いね」「団結力が違うね」と羨ましがられるほどです。それは、私の自慢です。身近な楽しいことがどんどん広がっていく事で、活性化に繋がっていくのではと私は思っています。

あいさつ日本一を目指して



岡原中二年 村山 宗瞳 ひろと

私達岡原中学校の生徒は、小さい頃からいっしょです。みんなとても仲が良いです。そんな岡原中生徒会が、今日目指しているのは「あいさつ日本一の学校」になることです。その取り組みとして、「あいさつレベル5」と「あいさつ運動」を

行っています。「あいさつレベル5」とは、あいさつのレベルが1から5まであって、レベル5のすばらしいあいさつを目指してがんばる取り組みです。「あいさつ運動」とは、部活ごとに分かれて朝七時半から地域の人にあいさつをする取り組みです。この二つの取り組みによって、岡中生はあいさつがどんどん上達していき

ます。私はあいさつをすることによって良い体験をすることができました。それは、陸上の大会で会う選手にあいさつをすると、みんな笑顔になって友達になってくれたことです。あさぎり中学校に行く後輩達にはたくさん友達を作ってほしいので、すばらしいあいさつができるようになってほしいと思います。あいさつ日本一の学校目指してがんばりますので、これからも応援よろしくお願

編集後記

今年の寒さは半端じゃない。特に年末から年始にかけての寒さと積雪には本当に驚いた。

ある神社のみやげ物屋では、「この雪では参拝客が少なく商売上がったんだよ」という話をしておられた。一年の初めには厳しい出だしたが、「冬きたりなば春遠からじ」これからこの寒さも和らぎ、町民の皆様にも和らぎ、町民の皆様に一日でも早い春が来る事を願っています。

二人の広報委員が交代し、顔ぶれも新しくなった広報委員会です。今年一年よろしくお願致します。(永井)

編集・発行責任者
議長 橋爪 和彦

広報調査特別委員会
委員長 愛甲 利孝
副委員長 皆越てる子
委員 櫻山 保
委員 奥田 公人
委員 桑原 武夫
委員 永井 英治

発行／あさぎり町議会
編集／議会広報調査特別委員会
〒868-0422 熊本県球磨郡あさぎり町上北 1855番地
TEL(0966)47-0312・FAX(0966)47-0265E-mail syoki-gika@town.asagiri.lg.jp